

抜糸前シャワー浴における意識調査 ～患者・医師へのアンケート調査より～

1 病棟 7 階西

實田育美 岡村倫子 神杉政志 小田晴美

I. はじめに

清潔ケアの目的は、単なる皮膚・粘膜を汚れのない clean な状態にするだけではなく、温熱効果による代謝、循環の促進、鎮静、鎮痛、催眠作用、さらに清潔感に伴う爽快感や闘病意欲の増進、そして清潔行動そのものが患者の離床や自立を促すきっかけともなる¹⁾とされている。

近年、術後抜糸前シャワー浴についての研究がなされており、術後早期回復に効果があるとの報告が散見されている。現在、山口大学医学部附属病院整形外科（以下、当院整形外科と略す）では、術後 10 日～14 日に抜糸施行、次の日創状態が良好であれば、術後初回シャワー浴を施行しており、抜糸がシャワー浴開始の目安となっている。その間、「いつお風呂に入れるか」「早くお風呂に入りたい」等の患者の声が聞かれ、清潔ニードは充足されていないのではないかと感じた。

昨年、当院整形外科において、防水シート（マルチフィックス）を施した創傷被覆剤（カラヤヘッシップ）を使用し、抜糸前シャワー浴の検討が行われた。その結果、細菌数の増加はなく、手関節部以外はシャワー浴前に防水シートの剥がれの有無を確認し、水の浸入なくシャワー浴を行う事ができるという結果が得られた。その後、術創に異常のない患者に対してカラヤヘッシップを使用するようになったが、シャワー浴については、以前と同様抜糸後に施行しているのが現状である。この原因として私達は、患者、医師が抜糸前シャワー浴に対し何らかの抵抗感があるのではないかと考えた。

そこで今回、患者、医師の抜糸前シャワー浴や清潔ニードに対する意識に着目し調査を行った。その結果、両者共に水の浸入による創感染の恐れが抵抗感に繋がっていることが明確になったのでここに報告する。

II. 研究目的

当院整形外科入院患者、整形外科医における抜糸前シャワー浴に対する考えや清潔ニードを明らかにする。

III. 研究方法

1. 期間：H17 年 6 月 21 日～8 月 30 日
2. 対象：1 病棟 7 階西整形外科入院患者 52 名、1 病棟 7 階整形外科医 20 名
3. 調査方法：術後から抜糸までの期間の清潔ニード、抜糸前シャワー浴を行う事への不安や抵抗感について独自でアンケートを作成し調査を実施。
回答は無記名とし個人が特定されないよう配慮した。
アンケート回収率は患者 77%、医師 60%であった。

IV. 結果

患者へのアンケートより、「術後抜糸までの間不快を感じたことがあるか」という質問に対して 17 人（58%）が不快を感じたことがあると答えた。不快の種類は、「頭皮の痒み」「汗のにおい」が各 7 人、「身体のべたつき」が 6 人、「陰部の不快」が 5 人、「その他」が 5 人であった。

「抜糸前に創を保護しシャワー浴ができるとしたらあなたは入りたいですか」との質問に対し、19

人(47%)が「はい」と答えた。その理由として、「汗の臭い、べたつきがあるから」「さっぱりしたいから」「自分で入りたい」「身体を清潔にしておきたいから」等の意見があった。シャワー浴に入りたいと答えた19人中10人が、術後5日目以降に「シャワー浴に入りたい」と答えた。「入りたくない」と答えたのは16人(40%)であり、その理由として、10人(62%)が「ばい菌が入るようで怖い」「化膿などが心配」等の声が聞かれ、感染に対する不安を挙げている。他に、「創の痛みのために清拭で仕方ない」「身体がだるくて余裕がない」との声が聞かれた。

医師へのアンケートでは、「清拭・洗髪・足浴のみで清潔ニードを充足できるか」という問いに対して、「充足できない」が10人(83%)であった。他に、「充足できないが仕方がない」「術後疼痛が強く、ADLの低下が著しい患者はそこまで清潔ニードは高くない」との声が聞かれた。

「抜糸前シャワー浴を許可できるか」との問いに対し、10人(83%)が「許可する」と答えた。その理由として、「日本の水道水は消毒されているので、それにより感染のリスクが高まるとは考えにくい」、「QOLの向上のためには必要」、「創がぬれなければ問題ない」との回答が得られたが、「人工関節などの金属使用例は抜糸まで待つべき」との回答が25%にみられた。「許可しない」が10%であり、その理由は「感染が怖い」「根拠がない」であった。

「抜糸前シャワー浴開始日は術後何日目で許可しますか」の問いには、「すぐに」が2人、「3～4日」が3人、「5日目」が3人、「1週間」が1人、無回答が3人であった。5日目の理由として、「医学的リスクが軽減すると思われる」「出血・浸出液がおさまる」「創治癒傾向にあれば可能」との回答が得られた。

V. 考察・結論

患者のアンケートより、調査を行ったのが夏場であり、38人中29人が入院前には毎日シャワー浴又は入浴していたという結果から、患者の清潔ニードに対する欲求はもっと高いと予測していた。しかし、抜糸前に創をカバーしシャワー浴に「入りたい」「入りたくない」の結果はほぼ同数であった。ヴァージニア・ヘンダーソンは、「患者が病気ゆえに自分の清潔の基準を引き下げるといふことはないようにしたい。むしろ、とかく低くなりがちな患者の基準を引き上げることが期待される。」²⁾と述べている。当科入院患者も「入りたくない」と答えた理由の62%が感染への不安であり、水の浸入による感染への不安から、清潔の基準を引き下げていると考える。

医師は、「インプラントや人工関節挿入例は抜糸まで待つべき」「患者本人の責任で最悪感染するリスクを承知の上でなら良い」との意見があった。また、「抜糸前シャワー浴を許可できるか」の結果において83%と高値であるにも関わらず、実際には抜糸前シャワー浴を実施できていないことから、両者共に水の浸入による創感染の不安が大きいと考えられる。

術後、抜糸前シャワー浴の開始時期については、患者、医師共に術後5日目以降がよいという結果が多かった。この理由として、医師からは、「医学的リスクが軽減する」「出血・浸出液がおさまる」という意見が聞かれた。これは、整形外科疾患の離床が2日～5日であることから、術後の疼痛や発熱等の一般状態の安定、ADL拡大時期を考慮したものと考えられる。

今後の課題として、患者、医師へ感染に対する不安や抵抗感を軽減させるために、まずは昨年の研究結果をもとに、抜糸前シャワー浴における感染への安全性を積極的に広めていく関わりが必要である。

VI. まとめ

1. 術後から抜糸までの期間の清潔ニード、抜糸前シャワー浴を行う事への不安や抵抗感について独自でアンケートを作成し、患者・医師へ調査を実施した。
2. 患者アンケート結果では、抜糸前に創をカバーしシャワー浴に「入りたい」「入りたくない」

はほぼ同数であった。

3. 医師アンケート結果では、「抜糸前シャワー浴を許可する」が83%と高値だが実際には抜糸前シャワー浴が実施できてない。
4. 患者・医師共に、水の侵入による創感染の不安が大きいと考えられる。
5. 昨年の研究結果をもとに、患者・医師へ抜糸前シャワー浴における感染への安全性を積極的に広めていく関わりが必要である。

(引用文献)

- 1) 樋之津淳子：清潔ケアのためのアセスメント法と効果的な清潔ケアの技術とポイント、看護技術、P43 2001-1
- 2) ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの、小玉香津子、日本看護協会出版会、P53 1995

(参考文献)

- 1) 高柳和江：手術後の早期入浴、治療、Vol. 82、No. 4、P1386 2000. 4
- 2) 飯盛静香他：抜糸前シャワー浴の効果—清潔ニードの充足と早期回復—、第34回 看護総合 P29-30 2003
- 3) 加藤仁志他：ハイドロコロイドドレッシング材の使用経験、整形外科、Vol. 55、No. 6 P733-737 2004-6
- 4) 仁野紫：抜糸前患者の清潔ニードの把握—アンケート調査を行って—、公立豊岡病院、第4群-2、P56-58
- 5) 井上崇文他：脊椎手術後早期シャワー浴の検討、医療法人財団池友会小文字病院脊椎脊椎外科、日本脊椎脊髄病学会雑誌 16(1) 2005
- 6) 芳賀きみ他：術後早期に手術創を解放し抜糸前シャワー浴することに対する患者の意識調査、県立会津総合病院誌、第19巻、P39L24-27 2003
- 7) 徳永昭・白川毅：創傷管理と入浴・シャワー、日本医事新報、No.03841、112-113、1997

患者アンケート

Q1：あなたは入院前、お風呂（またはシャワー浴）にはどれくらいの頻度で入っていましたか？

- ①毎日 ②2日に1回 ③3日に1回以上

Q2：術後の方に質問です。シャワー浴できない期間、洗髪・足浴・清拭の頻度は、あなたの清潔のニーズを充足する事ができましたか？

- ①はい ②いいえ

Q3：抜糸までのシャワー浴ができない期間、不快を感じた事がありましたか？

- ①はい ②いいえ

Q4：それはどのようなことですか？一番感じた事を1つ選んで下さい。⑤を選んだ方はその内容も記入してください。

- ① 頭皮の痒み ②汗の臭い ③身体のべたつき ④陰部の不快 ⑤その他
(⑤その他→)

Q5：抜糸以前にもし創部を保護してお風呂に入る事ができるとしたら、あなたは入りたいですか？

- ①はい ②いいえ

Q6：Q5で「はい」と答えた方に質問です。その理由を簡単にお聞かせください。

Q7：Q5で「いいえ」と答えた方に質問です。その理由を簡単にお聞かせください。

Q8：Q5で「はい」と答えた方に質問です。術後、シャワー浴したいと思ったのは、術後何日目からですか？

- ①1日目 ②2日目 ③3日目 ④4日目 ⑤5日目以降

医師アンケート

Q1：あなたはどれくらいの頻度で入浴またはシャワー浴を行なっていますか？

- ①毎日 ②2日に1回 ③3日に1回以上

Q2：術後シャワー浴ができない期間、洗髪・足浴、清拭のみで清潔ニーズを充足できると思いますか？

Q3：カラヤヘッシブ+マルチフィックスを貼用しシャワー浴する事に対してどのように思われますか？部位や疾患別に対して意見がありましたらお聞かせください。

Q4：術後患者の創に感染徴候がなく、状態が安定したら、カラヤヘッシブ+マルチフィックスを貼用しシャワー浴することに許可されますか？

- ①はい ②いいえ

Q5：Q4で「はい」と答えた方に質問です。それは何故ですか？

Q6：Q4で「はい」と答えた方に質問です。術後何日目からシャワー浴の許可を出されますか？またその日数の理由をお聞かせください。

Q7：Q4で「いいえ」と答えた方に質問です。それは何故ですか？